



東京都立多摩桜の丘学園学校だより



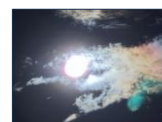
令和7年9月16日発行 第7号
多摩市聖ヶ丘1-17-1
電話 042-374-8111
発行者 校長 西田 良児

学び続けること

副校長 古山 尚秀

「名月を取ってくれろと 泣く子かな」俳人・小林 一茶（こばやし いっさ）

今年の東京は少雨で観測史上最多の酷暑日続きとなりましたが、それでもようやく朝夕は秋らしい爽やかさを感じるようになってきました。来週には秋分の日を迎え、夜空に綺麗な月が映える季節です。我が国には、四季折々の様子を表現する美しい言葉があります。子供たちには季節が移り変わる様に関心を抱いてほしくて、秋の虫の鳴き声に変わったことや空気が澄んで空が高く雲の形が夏と違うこと、旬の食材を使った給食から秋を連想することなど、日頃から言葉を意識して話し掛けています。



さて、本校では夏季休業中、様々な研修会などを企画、実施しました。教職員は、自身の専門性向上や2学期以降の授業などに備え、真剣に取り組みました。その一部を紹介します。

【発達性協調運動障害の理解と支援】7月22日（火）

東京家政大学の作業療法士の方を講師としてお招きし御講演いただきました。発達性協調運動障害（DCD）は子供の運動機能に影響を及ぼす神経発達障害の一種です。DCDがある子供は、「同年齢の子供よりも運動能力が低く動作がぎこちない」、「手先の器用さが求められる作業が苦手」、「日常の動作や活動に支障をきたすことが多々ある」などの特徴があるのですが、多くの教師や保護者がDCDに気付かず、適切な支援がなされないことが多いそうです。その原因として、身体障害や知的障害、他の発達障害とは独立した障害なのに、「そもそもDCDのことを知らない」「単に不器用な子」などとして見過ごされてしまうことが大多数とのこと。特別支援教育に関わる身として、「正確な知識」と「知っているからできる」ことの大切さを改めて痛感しました。

【理解推進事業研修】7月29日（火）

NPO法人東京都自閉症協会の自閉スペクトラム症当事者の方を講師としてお招きし御講演いただきました。本研修は、地域の小・中・高等学校教員や関係施設の方にも公開して行われました。自閉症スペクトラム症の症例から感覚などを想像することはできても、実際に体験することはできません。今回はその感覚を、当事者御本人の言葉として分かりやすくお伝えいただきました。「支援者は障害理解の上、相応の配慮ができるようにしなければいけないが、必要以上の支援、余計な支援は必要ない」との言葉が特に印象に残りました。今日からすぐに自身の行動を変えていける、大変興味深い学びの機会となりました。

【不審者対応訓練】8月27日（水）

立川市の小学校の事件も記憶に鮮明なところです。多摩中央警察署生活安全課職員の方を講師としてお招きし、校舎内に不審者が立ち入ったという前提での対応訓練を行いました。訓練後は教職員全員でさすまたの効果的な使い方を実践しました。



2学期も、教職員一同、子供たちと共に学び続け、保護者の皆様と手を携えながら子供たちのさらなる成長を支えていく所存です。引き続き、本校への御理解と御協力のほどよろしくお願い申し上げます。